

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0791200033		
法人名	株式会社 福祉ケアサービス		
事業所名	ホームズ くにみの郷		
所在地	〒975-0015 福島県南相馬市原町区国見町二丁目11番地の1 (電話) 0244-24-6222		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆビル302号室		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】 (19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83.6 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺病院、草野歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年5月に開設した、住宅街にある鉄骨造り1階建て2ユニットのホームであり、同法人が運営するデイサービス事業所と居宅介護支援事業所に隣接している。グループホームの近くには、スーパーや野馬追い祭の会場が近くにあり、利用者と散歩がてら出かけることができる。毎月、ユニットごとに目標(「外出をする」、「風邪予防に努める」等)を定め、日頃の支援内容を振り返りながら反省し、ケアの向上に努めている。管理者が日頃から利用者の『話を聞く』ことの大切さを職員に話しているため、一日の流れにとらわれず利用者の希望を取り入れながら、支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者が評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で、自己評価は自分を振り返る良い機会であると前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、平成19年10月に第1回を開催し、平成20年2月に第2回目を予定しており、概ね2ヶ月に1回の開催とはなっていない。事業所が開設して8ヶ月しか経っていないため、まだ余裕がないものと思われるが、定期的な開催となるよう取り組んでほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問した際には、利用者の日頃の様子を伝え、家族の意見等を聞き取るよう配慮している。先日も職員の顔と名前がよく分らないと、申し出があり、現在、対応を検討しているところである。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り(野馬追い)に利用者を出かけたり、子ども達のよさこい踊りの訪問を受けたりして地域と交流している。また、利用者が希望する時に歩いて買い物に出かけたり、外食に行ったり地域の中で生活している様子が伝わってくる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域での生活の継続とホームと地域の関係性の強化を柱に理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念について話しているが、職員に理解されていないため、理念を具体化して利用者にかかわる事ができるよう、工夫する必要がある。		今後は、理念をユニットごとに掲示したり、職員会議の際に読み上げたりすれば、職員はいつでも確認することができると思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(野馬追い祭り)等に利用者と一緒に参加したり、よさこい踊りの子ども達の訪問を受けたりと地域と交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を共有しながら、自己評価は職員全員で行い、一人ひとりの振り返りの機会とした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19年10月に第1回が開催され、第2回は平成20年2月に予定されており、概ね2ヶ月に1回の定期的な開催とはなっていない。グループホームが地域密着型の地域に開かれた事業所となるため、定期的な開催が必要である。</p>	○	<p>委員全員が出席出来なくても、概ね2ヶ月に1回の開催となるよう、取り組みが必要である。</p>
6	9	/			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>『郷のたより』を作成し利用者の日頃の様子を写真を掲載し報告している。また、家族が訪問の際に、預かり金の金銭管理状況等を報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問した家族からホームへの要望等を聞き取るようにしている。職員申し送り等でそれらの情報を共有し、運営に反映させている。今後は、聞き取った要望やその対応結果等を記録に残す必要があると思われる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員交代による利用者へのダメージを理解しており、やむ得ない場合は利用者の動揺が最小限となるよう、慣れた職員が対応することとなっているが、現在までは職員が1名退職しただけである。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には必要に応じて職員を出席させ、外部研修に参加した職員は、職員会議で研修報告を行い全体へ伝わる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設後、余裕がなく地域の同業者と交流する機会は、まだ、ない。今後は、情報交換をするためにも、是非地域の同業者と交流されるよう望む。	○	グループホームの質の向上を目指して、同業者や他事業者と互いにネットワーク作りや勉強会、相互訪問等が必要になるとと思われる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から料理の作り方や掃除の仕方等を教えてもらいながら、お互いに助け合っている。栗おこわを作る際には、栗の渋皮の簡単な剥き方を教えてもらった。年長者である利用者から多くのことを教えてもらえるよう、工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日のかかわりの中で利用者の意向を把握するよう努めている。言葉、表情、態度などで真意を推しはかっている。家族等からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に聞き取りをしたり、本人から話を聞き、計画作成に関しては計画作成担当者が原案を作り担当職員らと相談して完成させている。しかし、できあがった計画を確認しながら、日々の記録をしていないために職員に介護計画が理解されているとは思われない。	○	利用者ごとの介護計画を確認しながら、毎日、利用者の記録を記入すると、職員も計画を意識することができると思われる。記録の近くに介護計画のコピーを置く等の検討が必要である。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画に対してモニタリングを行っているが、その結果が介護計画の見直しに反映されていない。利用者や家族の状況は刻々と変化するため、現状に合った介護計画となるよう、利用者や家族の意向の確認とモニタリングの結果を介護計画の見直しにつなげてほしい。	○	介護計画書の期間には具体的な日付を記入するとともに、毎日、目にするところに介護計画書を置き、利用者の状態に合わせて変更等の話し合いができるよう工夫を考えてみるのがよいと思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により従来からのかかりつけ医を主治医とし受診している。受診時は家族等の協力を得ながら職員も一緒に通院介助するなど主治医との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針や見取りに対する考え方を定めているが、利用者・家族へ説明し同意書を得るには至っていない。	○	医療連携体制となっているため、ホームの重度化した場合の対応指針や見取りに対する考え方を説明し、利用者・家族の同意を得る必要がある。さらに、意向を確認し、主治医を交えて終末期・見取りに対して話し合いを実施し、関係者が全員で意向を共有することが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護の重要性を認識しており、利用者の「話を聞く」ことを大切にし、プライドを損なわないよう優しく言葉かけしている。また、個人情報利用同意書もそれぞれ取り交わしており、適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者の体調に配慮した見守りをし、利用者の意思・希望を大切にしながら一人ひとりの過ごし方を決めるなどの支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みを把握し、希望に沿った食事の提供をしており、利用者と職員で分担し準備や片づけを実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂や一日に2度の入浴など、利用者の希望の時間に入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者のできること・やりたい事を話し合い清掃、戸締り、ゴミ出し、調理や大正琴の演奏など利用者それぞれの希望に沿って支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	紅葉狩りや外食施設等へ出かけたり、利用者の希望に応じてできる限り散歩や買い物などの外出の機会を設け実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛ける事の弊害を理解し、日中、玄関の鍵は施錠していない。精神的な不安を取り除くように声を掛けたり外出したい利用者には職員が付き添うなどし対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練は実施したが避難訓練は実施していない。地域との連携・協力体制はまだできていない。食糧・水等の備蓄もされていない。	○	日頃からの避難訓練の実施と消防計画に沿った避難訓練を実施するとともに、地域の協力体制を取れるよう運営推進会議等を開催し働き掛けをする必要がある。また、災害時の食料・水の備蓄をされるよう望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、利用者ごとに食事と水分の摂取量を記録し、栄養バランスにも考慮されている。利用者の状態把握もされており、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天上が高く、天上からの採光により明るく広い快適な空間となっている。通路には各所にベンチが設置され休憩したり、会話を楽しんだり、一人で過ごしたりできるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔で明るく利用者の使い慣れた家具（冷蔵庫、タンス）や身の回りの物を持ち込んでおり利用者が居心地良く過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ホームズくにみの郷

記入担当者名 大井 利巳

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。